ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　88　号
２００７．７．18

目　次

就任にあたって……1
2007年度　北海道考古学会第44回総会略報……1
会員からの投稿……8
千葉英一氏「吉崎昌一先生を偲ぶ」
遺跡見学会のご案内……9
研究会のお知らせ……10
事　務　連　絡……12
名簿作成についてのお願い（再度）
会費納入についてのお願い
会誌編集委員会からのお知らせ

就任にあたって

新会長　川 名 広 文（札幌大学文化学部）

このたび天野前会長の後をうけて、一期ですがその任を担うことになりました。運営委員の顔ぶれも20代末から60代初めにわたり、活力と経験が合わさって頼もしい限りです。会誌編集委員や地域委員の方々にもご尽力いただきながら、本会の更なる活性化を図っていきたいと考えています。良き伝統を継承しつつ、総会・研究大会をはじめ遺跡見学会、定例研究会、遺跡調査報告会などの開催のほか、会誌・だよりの発刊、HPでの情報発信、会員名簿の発行、国際交流（ロシアなど）の推進などにおいて少しずつ改善・充実を図りながら、北海道考古学の発展を期したいと思います。

併せて、会員諸氏の一層のご支援・ご協力をお願いします。

2007年度　北海道考古学会第44回総会略報

４月28日(土)、北海道大学学術交流会館を会場に本年度の総会及び研究大会が開催されました。総会に先立ち、議長として熊木俊朗会員を選出し、2006年度の会務・決算報告、引き続き2007年度会務・予算計画について以下の議題にそって審議しました。議案は、原案どおり全て承認されました。

2007年度北海道考古学会第44回総会次第
開　　会
１．会長あいさつ
２．議長選出
３．議事
１号議案　2006年度会務報告

⑴　2006年度事業報告
ア　第43回総会・研究大会
期日：2006年５月13日(土)　場所：森町公民館
総会：2005年度会務報告、2006年度会務計画案
研究大会：北海道考古学会第43回大会「鷲ノ木遺跡の保存と活用」

イ　運営委員会（於　北海道大学）

第１回　４月15日(土)　総会・研究大会、決算報告、だより、会誌について
第２回　６月３日(土)　大会の回顧、遺跡見学会、だよりについて
第３回　７月14日(金)　会誌、名簿作成、遺跡見学会について
第４回　９月９日(土)　遺跡報告会、サハリン考古学界との交流、定例研究会、遺跡見学会回顧、だより、会誌について
第５回　10月14日(土)　遺跡報告会、だより、ホームページについて
第６回　11月11日(土)　遺跡報告会、定例研究会について
第７回　１月20日(土)　総会・研究大会、会員名簿、遺跡報告会反省について
第８回　２月10日(土)　定例研究会・総会、だより、会誌、会計収支について
第９回　３月31日(土)　総会・研究大会、委員改選、会員名簿、会計報告について

ウ　研究会

第１回　日　時：８月19日(土)
場　所：北海道大学
発表者：佐藤　剛（(財)北海道埋蔵文化財センター）
発表内容：「北海道道央部地域における縄文時代晩期初頭の土器様相について
－恵庭市西島松５遺跡出土の東三川式Ⅰ式土器の型式学的検討から－」

第２回　日　時：11月25日(土)
場　所：北海道大学
発表者：中村賢太郎*・竹原弘展*・石川朗**・鈴木茂*
（＊株式会社パレオ・ラボ、＊＊釧路市埋蔵文化財調査センター）
発表内容：「釧路市周辺で採取される黒曜石の特徴」

第３回　日　時：２月17日(土)
場　所：北海道大学総合博物館
発表者：長町章弘（恵庭市教育委員会）
発表内容：「『カリンバコタン』について
－旧カリンバ川流域に存在したアイヌ文化期の集落について－」
発表者：柏木大延（札幌市埋蔵文化財調査センター）
発表内容：「道内出土の土製支脚について」

第４回　日　時：３月17日(土)
場　所：北海道大学総合博物館
発表者：竹内　孝（函館工業高等専門学校）
発表内容：「EPMA分析画像解析法を使った土器調査」

エ　遺跡見学会

期　日：８月26日(土)
場　所：厚真町、平取町、千歳市
参加者：116名

オ　遺跡調査報告会

期　日：2006年12月９日(土)
場　所：北海道大学学術交流会館小講堂
内　容：各地域の概況および発掘調査の紹介・質疑

カ　だよりの発行

だより85号：2006年７月４日

だより86号：2006年11月15日
だより87号：2007年２月28日

キ　会誌の発行

2007年４月発行　500部

(2) 2006年度収支決算報告

収　入

項　目	費　目	予算額(A)	決算額(B)	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,710,000	1,425,000	▲ 285,000	
事業収入	研究大会収入	0	37,000	37,000	鷲の木遺跡見学ツアー 1,000円×37名
	遺跡見学会収入	500,000	554,000	54,000	参加費 (大人) 4,000円×115名 (子ども) 2,000円×１名 アイヌ弁当代 1,000円×92名
	遺跡調査報告会収入	120,000	134,000	14,000	報告資料集販売 134部×1,000円
	会誌等販売収入	100,000	238,660	138,660	会誌・資料集販売
	小　計	720,000	963,660	243,660	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		402	0	▲ 402	
繰越金		344,598	344,598	0	
基金繰入金	特別収入	0	0	0	
特会収入	特別会計収入	0	0	0	
合　計		2,775,000	2,733,258	▲ 41,742	

支　出

項　目	費　目	予算額(A)	決算額(B)	残(▲超過)額	備　考
事業支出	研究大会費	300,000	313,801	▲ 13,801	講師謝礼交通費・貸切バス等
	遺跡見学会費	300,000	347,625	▲ 47,625	貸し切りバス等・振込み手数料
	研究会費	10,000	0	10,000	案内発送
	遺跡調査報告会費	350,000	264,885	85,115	資料集印刷費 発表者謝礼交通費等
	会誌印刷費	1,200,000	993,510	206,490	第43号500部・振込み手数料
	だより印刷費	130,000	161,520	▲ 31,520	85号・86号・87号 振込み手数料
	ホームページ費	100,000	70,864	29,136	プロバイダー契約料・ 更新維持管理費
	小　計	2,390,000	2,152,205	237,795	
事務支出	総会費	15,000	0	15,000	
	委員会費	10,000	0	10,000	
	消耗品費	60,000	56,520	3,480	文房具代・封筒代・コピー代等
	通信費	200,000	243,102	▲ 43,102	会誌・だより発送費 葉書切手代金等
	事務人件費	50,000	100,500	▲ 50,500	会誌・だより等の発送等 事務処理
	小　計	335,000	400,122	▲ 65,122	
特別支出		0	0	0	
予備費		50,000	0	50,000	
合　計		2,775,000	2,552,327	222,673	

2006年度決算

項　　目	費　　目	予算額（A）	決算額（B）	差引額(B－A)	備　　考
	収入総計	2,775,000	2,733,258	▲ 41,742	
	支出総計	2,775,000	2,552,327	▲ 222,673	
決算額差引	収入総計（B）－支出総計（B）			180,931	

2006年度北海道考古学会基金会計

項　　目	費　　目	予算額	基金積立額	基金総額	備　　考
基　　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	平成17年５月29日 10,000円送金 平成18年３月22日 10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,060,000	
合　　計				1,060,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		983,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	160,000		823,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	60,000		763,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		523,000	
合　　計		537,000			
基　　金　　残　　高				523,000	

⑶　2006年度監査報告

2006年度北海道考古学会会計の監査を実施した結果、適正に処理されていることを確認したので、報告します。

2007年４月６日

監査委員　西田　　茂　　印
　　高橋和樹　　印

２号議案　2007年度会務計画

⑴　2007年度事業計画案

ア　基本方針

１）研究会活動の見直しと、会員からの研究会活動に対する要望をつのり、多くの参加者が得られる活発な研究会活動をめざす。
２）ホームページの定期的更新とホームページを通じた会の活動および会員への情報公開の促進を進める。
３）名簿の作成によって、会員相互の情報交換を促す。
４）だよりを通じた会費徴収の定期的呼びかけを行い、安定した会費徴収を図る。
５）会誌の販売を企画し、その収益を会員に対する情報発信のために利用する。

イ　2007年度事業計画

１）研究大会

日　時：2007年４月28日(土)　10：00～17：00　場　所：北海道大学学術交流会館
テーマ：「続縄文時代研究の現在」
基調講演：「続縄文文化と弥生・古墳文化を考える」　講師　辻　秀人氏
事例報告：「続縄文時代の土器研究の現状について」佐藤　剛会員ほか

2）遺跡見学会

日　時：８月，見学地：オホーツク海沿岸方面，参加者：80名（予定）

＊後述９頁「遺跡見学会のご案内」のとおり詳細が決定いたしました。ふるってご参加ください。

3）遺跡報告会

日　時：2007年12月15日(土)(予定)

場　所：北海道大学学術交流会館

4）研究会

開　催：年３回，時　期：８月、11月、２月

＊後述10頁のとおり決定いたしました。ふるってご参加ください。

5）連絡誌「だより」の発行

発　行：年３回（第88号、第89号、第90号）

時　期：７月、11月、３月

6）会誌「北海道考古学・第44輯」の発行

発　行：年１回，時　期：2008年４月

7）ホームページの管理運営

(2) 2007年度予算案

収　入

項　目	費　目	2007年度予算額(A)	2006年度決算額(B)	増　▲減	備　考
会　費	会　費	1,500,000	1,425,000	75,000	5,000円×300件
事業収入	研究大会収入	60,000	37,000	23,000	資料代 500円×120部
	遺跡見学会収入	500,000	554,000	▲ 54,000	4,000円×115名（貸切バス３台）
	遺跡調査報告会収入	130,000	134,000	▲ 4,000	報告資料集売上 1,000円×130部
	会誌等販売収入	100,000	238,660	▲ 138,660	
	小　計	790,000	963,660	▲ 173,660	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		4,069	0	4,069	
繰越金		180,931	344,598	▲ 163,667	
基金繰入金		0	0	0	
特会収入		0	0	0	
合　計		2,475,000	2,733,258	▲ 258,258	

支　出

項　目	費　目	2007年度予算額(A)	2006年度決算額(B)	増　▲減	備　考
事業支出	研究大会費	320,000	313,801	6,199	要旨印刷・講師謝礼 交通費・会場使用料等
	遺跡見学会費	300,000	347,625	▲ 47,625	貸し切りバス等・振込手数料
	研究会費	20,000	0	20,000	案内発送、研究会・共催費
	遺跡調査報告会費	300,000	264,885	35,115	資料集印刷・発表者 交通費・会場使用料等

	会誌印刷費	950,000	993,510	▲ 43,510	第44号500部・振込手数料
	だより印刷費	130,000	161,520	▲ 31,520	88号・89号・90号・振込手数料
	ホームページ費	90,000	70,864	19,136	プロバイダー契約料 更新維持管理費
	小　　計	2,110,000	2,152,205	▲ 42,205	
事務支出	総会費	5,000	0	5,000	
	委員会費	5,000	0	5,000	
	消耗品費	50,000	56,520	▲ 6,520	文房具代・封筒代・コピー代等
	通信費	200,000	243,102	▲ 43,102	会誌・だより発送費 葉書切手代金等
	賃金	50,000	100,500	▲ 50,500	会誌・だより等の発送等 事務処理
	小　　計	310,000	400,122	▲ 90,122	
特別支出	名簿作成費	55,000	0	55,000	名簿印刷費
予備費			0	0	
合　　計		2,475,000	2,552,327	▲ 77,327	

2007年度北海道考古学会基金会計

項　目	費　目	予算額	基金積立額	基金総額	備　考
基　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	2005年５月29日 10,000円送金 2006年３月22日 10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,060,000	
合　計				1,060,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		983,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	160,000		823,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	60,000		763,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		523,000	
合　計		537,000			
基　金　残　高				523,000	

３号議案　運営委員・監査委員の改選について

北海道考古学会会則第６条および規則２－１第２条・第３条に基づき、運営委員および監査委員について会員による推薦と投票の結果、以下のように改選を行います。

○会　長　　川名　広文（再任／前任総務，札幌大学文化学部）

○副会長　　越田賢一郎（新任，(財)北海道埋蔵文化財センター）

○地域委員
第３地域　　嶋井　康夫（新任，仁木町教育委員会）
第４地域　　石井　淳平（新任，厚沢部町教育委員会）
第５地域　　松田　宏介（新任，室蘭市教育委員会）

第６地域　　高畠　孝宗（新任，オホーツクミュージアムえさし）
第７地域　　松田　　功（再任，斜里町立知床博物館）
第８地域　　大橋　　毅（新任，芽室町教育委員会）
第９地域　　深沢百合子（新任，東北大学大学院国際文化研究科）
第10地域　　高瀬　克範（再任，明治大学文学部）

○会誌編集委員（五十音順）
加藤　博文（北海道大学大学院文学研究科）
熊木　俊朗（東京大学大学院北海文化研究常呂実習施設）
鈴木　　信（(財)北海道埋蔵文化財センター）
野村　　崇（北海道北方博物館交流協会）
宗像　公司（(財)北海道埋蔵文化財センター）

○運営委員
総務担当　澤井　　玄（再任／前任だより，北海学園大学教務センター）
　　坂梨　夏代（新任，札幌国際大学人文学部）
会計担当　石井　　淳（再任／前任会計，札幌市埋蔵文化財センター）
会誌担当　平川　善祥（新任，北海道開拓記念館）
　　守屋　豊人（再任／前任だより，北海道大学埋蔵文化財調査室）
研究会担当　大泰　司統（再任／前任研究会，(財)北海道埋蔵文化財センター）
　　木山　克彦（新任，北海道大学大学院文学研究科）
見学会担当　長町　章弘（再任／前任見学会，恵庭市教育委員会）
　　柏木　大延（再任／前任見学会，札幌市埋蔵文化財センター）
報告会担当　阿部　明義（再任／前任報告会，(財)北海道埋蔵文化財センター）
　　鈴木　琢也（再任／前任報告会，北海道開拓記念館）
だより担当　下野　直章（新任，北広島市教育委員会）

○監査委員
高橋　和樹（再任，北海道教育庁）、菊池俊彦（新任，北海道大学）

吉崎昌一先生を偲ぶ

千 葉 英 一（北海道教育庁文化・スポーツ課）

先生は2003（平成15）年５月、連休明けにご自宅で脳幹出血で倒れ、長い間療養にあたられていたが、本年２月20日、午前２時ころ逝去との知らせが江別市役所の直井氏からあったのは、北海道埋蔵文化財センターに出勤して間もなくのことであった。我々は覚悟はしていた。先生が桜を愛でていたかどうかはつい判らず仕舞いだが、多分今年の桜はご覧になれないだろうと。センターに寄ってくれた直井夫妻の車に乗り、自宅で妻を拾い、遺体が安置されている斎場に向かった。先生のお顔は長い病院生活にもかかわらず安らかだった。少し黄色味が強かったけれども。午後２時過ぎ、野辺の送りならぬ、棺の納められた献体先である札幌医科大学の車を見送った。

倒れる４日ほど前の連休中、先生のお宅で夫婦ともどもご馳走にあずかったのが、一緒に酒を嗜んだ最後。その時先生が噎せて、背中を叩いたりさすったりしたのが、広く厚い背中に触れた最後。2006（平成18）年11月23日、満75歳の誕生日を病室で祝ったのが、存命中にお会いした最後であった。

先生に初めてお会いしたのは、1972（昭和47）年７月、タチカルシュナイ遺跡の発掘に参加する東北大学考古学研究室のスタッフを遠軽駅に出迎えてくださったときである。この発掘が契機となり、修士論文で「北海道の細石刃文化」を扱うことにした私は八雲町トワルベツ遺跡、大関遺跡の資料を先生から借り受け、何とかものにすることができた。その後1978（昭和53）年夏北海道教育委員会に奉職してからは、一層、公私にわたりお世話になった。先生が北大の埋蔵文化財調査室長を兼務されるようになってから、調査室はまさにサロンのようで、勤務が終わるとよく立ち寄ったものである。「来る者拒まず」の先生を通して、考古学以外の多くの方々とも知り合うことができたのは幸いであった。

先生の既成概念にとらわれない自由かつ大胆な発想にはいつも驚かされ、また分かり易い文章表現には自分もかくありたいと思ったものである。そのような先生の業績について私が述べるのも恐れ多いが、大きく３点挙げられようか。

１点目は北海道の旧石器文化の探究と編年作業であり、湧別技法の発見である。外国の旧石器研究者からも「吉崎といえば湧別技法」「湧別技法といえば吉崎」と賞賛されたという。私の師の芹沢先生が国の文化財審議委員をされていた頃、吉崎君の湧別技法の資料は重要文化財にすべきものだとおっしゃっていたが、大学紛争のときに行方知れずになったことを非常に残念がっていらっしゃったのを思い出す。

２点目はアイヌ民族の起源・形成など古代北方文化に関する多くのシンポジウムでの発言である。特に35年も前の『アイヌ』における発言は、参加者皆がそうであるが、今なお新鮮であり、戦後1948（昭和23）年のシンポジウム『日本民族の起源』を髣髴とさせるものがある。

３点目は遺跡の調査にフローテーション法をいち早く取り入れ、植物遺体を検出し、走査型電子顕微鏡を駆使し、考古植物学という新分野を拓いたことである。なかでも、栽培植物として縄文ヒエを見い出し、縄文時代は狩猟採集文化であるという通説に対して、一石を投じられたことは重要である。しかし、先生が研究半ばで逝かれたことにより、考古学研究者のみならず民族学、植物学、農学等の研究者に大きな課題が与えられたと言えよう。

吉崎先生は私にとって師としては叔父貴にあたる。この１年の間に二人の師が相次いで逝去、正直ショックを隠しきれない。しかし、目を閉じると情景が浮かぶ。彼岸での再会にお互い驚かれ、そして、何か談笑し始めた。何を話されているのであろうか、そっと聞いてみたいと思うのは、私ひとりだけではないだろう。

心からご冥福をお祈りします。黙祷。

〔事務局より〕

2007年２月20日、元北海道大学教授の吉崎昌一先生が逝去されました。先生は、北海道考古学界はもとより日本考古学界の発展にご尽力され、その業績については、あらためてご紹介するまでもありません。

今回、故人と所縁の深い千葉英一氏より、吉崎先生との思い出と哀悼の意を寄せて頂くことができました。お忙しい中ご寄稿頂いた千葉氏に深く感謝申し上げるとともに、吉崎先生のご逝去をいたみ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

遺　跡　見　学　会
「発掘された日本列島速報展とオホーツク遺跡巡り２日間」のご案内

毎年恒例の遺跡見学会、今年度はかねてからご要望の多かった１泊２日で計画いたしました。帯広では、文化庁主催の「発掘された日本列島2007」をご覧いただきます。これは昨年行われた日本各地の発掘調査の中から、特に注目される出土品を選りすぐった巡回展で、北海道での開催は帯広だけです。また、網走では謎に包まれた古代文化、「オホーツク文化」研究の原点と言われるモヨロ貝塚の発掘調査現場を見学します。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

○日　　時　８月４日(土)～８月５日(日)　１泊２日　＊雨天決行
○集合場所　札幌駅北口（観光バス乗り場）　　集合時間　７：50
恵庭駅東口（エコバス停付近）　　集合時間　８：30
千歳駅東口（フリー自転車ステーション看板前）　集合時間　８：50

○見学コース　＊北遊観光バスの貸切バスで移動します。

日　程	見　　学　　コ　　ー　　ス
４日 （土）	札幌駅北口（７：50）→恵庭駅東口（８：30）→千歳駅東口（８：50）→ →（車中にて持参昼食）→帯広百年記念館（『発掘された日本列島速報展』見学）→ →陸別町ユクエピラチャシ跡見学→網走市ホテル着（19：00予定）　＊網走市泊
５日 （日）	ホテル発（８：00）→網走市国史跡モヨロ貝塚発掘調査現場・貝塚館見学→ →網走市立郷土博物館見学→北海道立北方民族博物館見学→（車中にて弁当昼食）→ →北見市ところ遺跡の森・遺跡館見学→札幌駅→恵庭駅→千歳駅（19：00予定）

＊なお、天候・道路・現場の状況により日程を変更する場合があります。ご了承ください

○参加費用　お一人様　大人19,800円、中学生以下16,800円（４名１室料金）
＊追加料金３名１室1,000円、２名１室2,000円、１名１室4,000円
＊参加費用に含まれるもの……宿泊代（１泊２食付き）、２日目の昼食代、交通費、保険料、入館料、資料代

○募集人数　先着順80名（最少催行人数30名）

○申込方法　下記必要事項記入のうえ、往復葉書、メール、FAXのいずれかでお申し込みください。
〔記入事項〕　①郵便番号・住所　②氏名・性別・年齢（相部屋する同伴者も）
③電話番号（FAXの方はFAX番号も）　④希望集合場所
⑤（３人以下で申し込む場合）他の参加者との相部屋を希望する・しない
〔往復葉書の場合〕
〈往信部表面〉〒060-0061　札幌市中央区南１条西４丁目日本旅行札幌ビル４F
㈱日本旅行北海道 遺跡見学会係
〈往信部裏面〉①～⑤を記入
〈返信部表面〉返信用にお申し込み者の郵便番号・住所・氏名
〈返信部裏面〉何も記入しないでください。
〔メールの場合〕①～⑤を記入のうえsapporo9_nhhkd@nta.co.jp遺跡見学会係まで
〔FAXの場合〕　①～⑤を記入のうえ 011-208-0177 ㈱日本旅行北海道遺跡見学会係まで

○そ の 他　１通で複数名の申込者が記入されている場合は、宿泊を原則同部屋とします。
○申込期限　**７月25日（水）**　往復葉書の場合当日消印有効
○支払方法　銀行振り込み。お申し込み頂いた方に、口座番号・取消料等の詳細を連絡します。
○持ち物等　歩きやすい服装・靴でお越し下さい。１日目の昼食は持参してください。その他、雨具、帽子、虫よけ、筆記用具などお持ちいただくことをお勧め致します。

○問合せ先　長町（090-2876-1170）または柏木（090-2819-5462）まで　**平日の18：00～20：00**

研究会のお知らせ

1　定例研究会（主催）

第１回定例研究会

○日　時：７月28日(土)　13：30～
○場　所：北大総合博物館２階　共同研究室
○発表者：柳澤清一氏（千葉大学教授）
○テーマ：「伊茶仁ふ化場第一遺跡と北方編年体系
－擦紋末期から貼付紋紋系土器群への展開への試論－」（仮題）

第２回定例研究会

○日　時：11月17日(土)　14：00～
○場　所：北大総合博物館２階　共同研究室
○発表者：芝田直人氏（(財)北海道埋蔵文化財センター）
○テーマ：縄文時代晩期後半の生業と土器編年－江別市対雁２遺跡の調査から－
○内　容：江別市対雁２遺跡は旧豊平川と石狩川本流との合流地点に位置し、河川堆積による自然堤防上に形成された。平成11年度より(財)北海道埋蔵文化財センターが調査を継続しており、これまでに縄文晩期中葉～続縄文前葉の焼土約1600か所、土坑約200基、土器集中２か所が検出され、遺物も多数出土している。今回の報告では、主に焼土の水洗選別により得られた炭化種子、骨片などの分析をもとに、当該期の生業の問題について触れる。また、出土生活面の新旧から設定した晩期後半の土器編年を示すとともに、放射性炭素年代測定結果との整合性についても述べる。

2　共催する研究会

⑴　『北海道の縄文時代の始まりを昼下がりに語る会』（共催）

大正３遺跡における草創期遺物の発見に代表されるように、近年の発掘調査の成果により北海道の旧石器時代から縄文時代への移行に関するこれまでの認識は、大幅な変更が求められています。

また、縄文時代に移行して間もない時期（約８千年前）には東西地域間で画然とした考古資料の相違があり、これは縄文文化の成立過程が地域間で異なることを示唆しています。

この研究会では、市民とともに先史研究における考古資料の役割について理解を深めるとともに、北海道における縄文文化の成立に関する研究の現状と課題について議論することを目的とします。

○日　時：８月４日(土)　13：30～16：30
○場　所：帯広百年記念館（帯広市緑ヶ丘２番地　℡0155-24-5352）
○対　象：研究者・一般市民
○主　催：帯広百年記念館
○共　催：北海道考古学会、十勝管内博物館学芸職員等協議会

○発表者（所属）；テーマ　＊発表予定順
山原敏朗（帯広百年記念館）
「縄文時代への移り変わりのきざしが見え始めた頃（概説）」
直江康雄（財団法人北海道埋蔵文化財センター）
「小型鋸歯状尖頭器を含む石器群について」
山原敏朗（帯広百年記念館）
「縄文時代に移り変わって間もない頃（概説）」
石川　朗（釧路市埋蔵文化財センター）
「釧路地方におけるテンネル・暁式土器文化の様相」
熊谷仁志（財団法人北海道埋蔵文化財センター）
「暁式土器の頃の道央部」

⑵　**日本地質学会第114回学術大会（札幌大会）シンポジウム『遺跡形成における地質現象』**

考古遺跡形成過程において生じ、かつ考古学的解釈に影響を与える地質現象－地域的あるいは局地的な堆積・侵食作用、マス・ムーブメントとそれらにともなう地形発達、土壌生成にともなう物質移動や生物擾乱、火山・地震活動や気候を要因とする遺跡構成物質の変形、人間活動による自然および人為堆積物の擾乱など－について検討し、とくに遺構・遺物の分布と層序認定、過去の地表環境の復元とどのようにかかわるか、この点について議論を深めます。

○主　催：日本地質学会第114回学術大会（札幌大会）実行委員会
○共　催：日本地質学会・北海道考古学会・低湿地遺跡研究会
○日　時：９月９日(日)　午前９：00～
○場　所：北海道大学高等教育機能開発総合センター（札幌市北区北17条西８丁目）
○参加費（要旨集を含む）
北海道考古学会・地質学会・低湿地遺跡研究会 各正会員…事前：7,500円、当日：9,000円
非会員…事前：12,000円、当日：15,000円
＊事前登録は、８月８日(水)までに、日本地質学会第114回学術大会（札幌大会）実行委員会ホームページから行うか、あるいは別紙に必要事項を書き込み、下記までお送りください。
〒060-0003 札幌市中央区北３条西１丁目1-1 札幌パナソニックビル４F
近畿日本ツーリスト(株)札幌事業部 日本地質学会札幌大会 受付担当デスク
TEL：011-280-8855　FAX：011-280-2732　E-mail : hkd-ec@or.knt.co.jp
○問い合わせ先
渡邉正巳（文化財調査コンサルタント(株)）
E-mail : geo-sympo@cons-ar.co.jp　TEL：0852-23-8847　FAX：0852-23-8848
＊詳細は、日本地質学会第114回学術大会(札幌大会)実行委員会ホームページからも確認できます。
第114回学術大会HP ⇒ http : //www.ep.sci.hokudai.ac.jp/~mmgc/GSJ-Sapporo2007/index.htm
シンポジウムの専用ホームページ ⇒ http : //www.cons-ar.co.jp/geosympo2007

○発表者（所属）；テーマ　　**＊氏名（所属）**は当日発表者
高倉　純（北海道大学埋蔵文化財調査室）
「石狩低地帯北部における続縄文・擦文遺跡の形成過程」
野口　淳（明治大学校地内遺跡調査団）・林　和広（東京大学大学院）・須永薫子（東京農工大学）・竹迫　紘（明治大学）・坂上寛一（星槎大学）・安蒜政雄（明治大学）・長沼正樹（明治大学校地内遺跡調査団）
「後期旧石器時代の遺跡形成過程
－武蔵野台地南部立川ローム層中の石器集中部・礫群・遺構－」
出穂雅実（札幌市埋蔵文化財センター）
「北海道上幌内モイ上部旧石器遺跡における地考古学的調査」
川辺孝幸（山形大学地域教育文化学部）
「座散乱木遺跡検証発掘における地層の地質学的検討」
内山　高（山梨県環境科学研究所）・野尻湖発掘調査団（野尻湖ナウマンゾウ博物館）
「長野県信濃町野尻湖底立が鼻遺跡の野尻湖層の堆積構造と化石・遺物」
松田順一郎（東大阪市鴻池新田会所管理事務所）
「南西諸島海岸砂丘の遺跡形成解釈における堆積学・地形学的視点」
井上智博（(財)大阪府文化財センター）
「沖積低地における地形形成過程と土地利用の関係
－大阪府河内平野の弥生時代水田を中心に－」
別所秀高（東大阪市鴻池新田会所管理事務所）・松本直子（岡山大学大学院社会文化科学研究科）
「岡山県出崎船越南遺跡にみられた過去7000年間の海岸地形の変化」
趙　哲済（(財)大阪市文化財協会）
「層序を誤認させた土壌生成作用－乾裂・凍結割れ目を例にして－」

小倉徹也（(財)大阪市文化財協会）
「遺跡で見つかった地すべりについて－大阪市内の遺跡を中心に－」
渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）
「花粉粒の挙動－生産と散布・堆積・保存－」

名簿作成についてのお願い（再度）

だより86号にてお知らせしましたとおり、昨年度、会員の皆さま宛に名簿作成用のハガキを送付させていただきました。早々に返送くださった会員の皆さまに感謝いたします。

一方、６月末現在で、まだ約45％の会員の方からの返送をいただいておりません。返信いただいていない会員におかれては、一日も早い名簿発行のためにも速やかに必要事項を記入の上ご返送ください。ハガキを紛失された方がおいででしたら、下記項目（各項目に掲載の諾否を明記して）を記入の上、メール・ハガキ・ファックスで下記事務局までご連絡願います。

【記入項目】

①会員名（ふりがな）　②勤務先　③勤務先住所　④勤務先電話
⑤自宅住所　⑥自宅電話　⑦メールアドレス　⑧研究テーマ

なお、８月末までに返送いただけない場合は、事務局で把握している氏名・住所および所属などを名簿に掲載させていただきますので、ご了承ください。

また、皆様の中で名簿ハガキを送付された後、住所・所属等が変わられた方がいらっしゃいましたら、お手数ですが氏名と変更部分についてご連絡をお願いいたします。

＊**事務局の所在地が変わりました**ので送付先にご注意ください。当会からお送りしたハガキを使用する場合は、送付先を新住所に訂正の上、返送いただけるようお願い申し上げます。

＊会員の皆さまからお預かりした個人情報は、北海道考古学会にて厳重に管理し、学会関係の郵便物の送付やご案内などの会務以外に用いることはいたしません。

会費納入についてのお願い

委員会では会計担当を中心に、未納会費の収納や収入の確保に努力しておりますが、未だ、楽観できない状況が続いております。会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認した後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770-6-8358　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　（学生）3,500円

会誌編集委員会からのお知らせ

2008年４月刊行予定の第44輯への会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。論文・研究ノート以外にも、資料紹介・書評などの投稿も歓迎いたします。編集の都合上、投稿を予定されている方は、あらかじめ編集委員会にお知らせいただければ幸いです。なお、投稿規定に関しての詳細は、『北海道考古学』第41輯140頁に掲載した「北海道考古学」投稿について（抜粋）をご覧下さい。

原稿送付先：北海道考古学会会誌編集委員会　宛
〒060-0811 札幌市北区北11条西７丁目　北海道大学埋蔵文化財調査室
TEL：011-706-2671　FAX：011-706-2094

締 め 切 り：2008年１月末日

北海道考古学会だより　第88号　2007年７月18日　発行
発行所　北海道考古学会（HP：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局；〒062-8520　札幌市豊平区西岡３条７丁目３番１号
札幌大学文化学部　川名研究室気付　TEL/FAX 011-852-9313
E-mail；hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp
印　刷　北海道図書企画　（011）668－1131